ばかげた夢の可能性

西田浩雅 —— 新聞記者

『サイエンス・インポッシブル』　ミチオ・カク／NHK出版／2008年

時間旅行にテレパシー、透明人間に予知能力…。

子どものころには誰しも「もしかしたら実現するんじゃないか」と空想した覚えがあるはずです。高校生にもなるとすっかり卒業して、「中二病」などと笑いものにしてしまう。でも、心のどこかでは捨てきれない——。そんな夢が現実となる可能性を、世界的な理論物理学者が解き明かしてくれます。

著者のミチオ・カクは、米サンフランシスコ生まれの日系３世です。ハーバード大学を卒業後、ニューヨーク市立大学などで教鞭を執りました。素粒子論、中でも「ひも理論」の権威として知られる人だそうです。

とはいってもこの本に、難しい数式は出てきません。入り口は「スター・ウォーズ」や「バック・トゥ・ザ・フューチャー」、あるいはシェークスピアの「テンペスト」。そこに登場する現実離れした技術や超能力が、これまでどう論じられてきたかをたどり、現代の科学者による研究を紹介します。そして近い将来、あるいは遠い未来に実現できるかどうか「不可能レベルI」から「III」に分類しています。

例えばタイムトラベル。宇宙ステーションに748日間滞在したロシアの宇宙飛行士が実際に0.02秒、未来への時間移動を体験した例などを紹介。過去への時間旅行も、可能にする理論がいくつも見つかっているという、最新の研究成果を教えてくれます。

タイムトラベルは「不可能レベルII」です。「実現するのは数千年から数百万年も先のことかもしれない」そうですが、それでも少し、うれしくなりませんか？

もちろん多少の科学用語は出てきます。それでも文系の頭で理解できるやわらかい語り口が、本書の特徴です。著者自身、子ども時代にテレビのＳＦドラマに釘付けとなったことが科学の道を志すきっかけになった、そんな経験も背景にあるのでしょう。

訳文もこなれています。小説などの凝った文章の日本語訳より、読みやすいのではないでしょうか。いわゆる「翻訳調」が苦手でも、慣れる手がかりになるかもしれません。

「一見したところばかげていないアイデアには、見込みがない」

冒頭に引用されたアインシュタインの言葉が、この本のメッセージでもあります。科学の世界に限らず、突飛な発想や規格はずれの個性を受け入れる、そんな社会でありたいものです。